

公益財団法人 松園尚己記念財団

My graduation 2021

氏名: Y.I

システム開発・ソリューションサービス企業/システムエンジニア

長崎大学 経済学部 総合経済学科卒

私の大学生活を一言で表すと、「前進」だ。特に、「勉強と生活の両立」に励んだ。

字面から見ると、「どこの中学生の作文だよ」と揶揄されてもおかしくなく、とてもつまらなく、当たり前のことと感じられるかもしれない。しかしながら、私にとっては 4 年間常に感じていた課題である。

まず、勉強については一定以上の成績を目標設定し、どんなに忙しく、難しいものであっても、あきらめることをしなかった。なぜなら、学べること自体がありがたいことであり、大学で学べ得るすべてを得たかったからである。もちろん、先輩の恩恵を大いに活用させていただいたこともあるが、掲げる水準をすべて満たすことができたのは、大きな成果ではないかと感じている。

また、ゼミナールで学びを深めた「ゲーム理論」は、いまだに理解が難しく、興味がつきることがない学問である。しかし、一生付き合い、考えを深めたいと思えるような分野に出会えたことも素晴らしいと考える。

次に、生活については経済的なやりくりで奔走した。アルバイトを大学に影響のないよう、工夫して複数行い、毎月の生活費を捻出した。奨学金は大学の授業料や、教材費、資格の試験代に積み立てたため、家計簿をつけ、その使い分けをしつかりと行った。(この時にエクセルの使い方を覚えたといっても過言ではない。)

また、実家が経済的に不安定であったため、仕送りを毎月行っていた。そのため、自由に使えるお金というものは本当にわずかではあった。しかしながら、計画する範囲内で家計を納められた際には大きな喜びを得られたし、「足る」という感覚を大学生のうちに学ぶことが、社会人になるうえでかけがえのない経験になったのではないかと強く感じている。本来の大学生らしい生活とはかけ離れているのかもしれないが、友人たちとは毎日を十分に楽しむことができたと感じているし、それを理解してくれる人々とのつながりも得られた。

このように、私の大学生活は何か情熱を注ぎこんだわけでも、何か大きな賞を頂くような目に見える成果を得られたわけではない。しかしながら、一大学生として自分がやりたいことをすべて行い、それを自分で実現してきたという実績や人間力の厚さにおいては、周りのだれにも負けない自信がある。

今後については、かねてより興味があった IT 系の業界で働くことが決まっている。これも、経済学部で学んだことをもとに自己分析、インターンシップを行い、最終的に導き出した

自分の将来である。加えて本社での 2 年間の研修の後、長崎拠点において勤務することが決まっているので、お世話になったこの土地に恩返しができることが素直にうれしい。そして、私の大学生活での学びが役立つかはわからないが、後進たちに伝えたいと思う。日本は、この数年で進学への補償が手厚くなり、高校二年生の約 5 割超が大学進学を目指す世の中になった。しかし、誰にでも学問への道が開かれているわけではないし、まだまだ社会からの逆風は強い。このコロナ禍で不遇な立場に戸惑う方々も、以前より増えたのではないか。その中で、経済的に不安のあるであろう奨学生の皆さんは、時に周りからのギャップに寂しさや悔しさを感じるかもしれない。それは私も経験し、大学で学ぶことの意味を何度も考え直したことがある。

しかしながら、常に自分を見てくれる誰かはいて、自分は自分であり、周りと比べるだけ損するだけなのである。一人一人の「普通」は違うので、「あ、こんなもんだよな。」と期待しすぎなくらいがちょうどいい。

私の尊敬する一人のオードリータン氏が、「人間だれしもヒビを持つが、そこからは必ず光がさす」という言葉を言っている。欠点や不安点があるのは当たり前なのだから、自分ならやり遂げられると、信じて前を向くことが大事である。

どんなにつらいことがあって下を向いても、どんなに後悔をして後戻りしたくなっても、その足を止めずに、しかしながらマイペースに、「前進」する。

それが私の大学生活の総括であり、これからも掲げていく目標である。